

<今日の説教のポイント 出エジプト記4章1～17節>

1 (1-9) 驚くべきは3つの奇跡ではなく、モーセの強情さ。

ここを読むと、神様がモーセに示された、杖が蛇に変わる奇跡、手が重い皮膚病に変わる奇跡、水が血に変わる奇跡、これら3つに驚かされます。そんなのを見せられたら、信じずにはおれないと思います。しかし、本当に驚くべきは、それらを示されてもなお神様の命令を受け入れようとしなかったモーセの強情さではないでしょうか。大事な点は、その強情なモーセは私たちを代表しているのだということです。

2 (10-12) 吃音だったモーセ。口を利けないようにするのも神様。

ここを読むと、モーセが吃音だったことが分かります。託された使命に躊躇する、また別の大きな理由をモーセは持っていたのだと思わされます。しかし、神様はそんなモーセに同情するのはでなく、むしろ、そんなことは元々承知だとかのようには言い返されたのです(11節に注目)。神様は、「では、吃音を治そう」と言われず、「吃音にしたのは私だよ。その私があなたと共にいるのだから安心なさい」と言われたのです！ 持たないもの、失ったものに目を向け、それが無いからもう駄目、それを与えて欲しい、元に返してほしいと神様に願うのは、聖書から教えられる信仰者の姿ではありません。「持たなくてもいい、失っても大丈夫。私は神様を持っているのだから、いつも神様が共にいて下さるのだから」、そう考えられるようになる恵みを与えられたのが信仰者なのですから(3章12節ですでに言われている！)。

3 (13-17) 信仰は納得ではなく、神様への降参から始まる？！

しかし、モーセは神様の言葉を聞いて納得したのではなく、なお拒み続けました(13)。神様は怒りを発せられましたが(14)、むしろ、なお優しく、この時のモーセの不安を解消すべく、兄アロンを彼の口とする手立てを講じて下さったのです。ここでも神様は、「わたしはあなたの口と共にあり、また彼の口と共にあって、あなたたちのなすべきことを教えよう」(15)、とされています。そして、とうとうモーセは神様から命じられた使命を果たすために立ち上がるのです。納得したからではなく、もう神様に降参して、そういう感じでした。信仰には確かにそういう面があっただけでいいのだと思います。神様に降参、それは信仰の恵みに繋がります。